様式２

審議会等会議録

審議会等の名称	令和４年度第２回山口市環境基本計画策定部会会議録
開催日時	令和４年８月５日（金曜日）１０：００～１２：００
開催場所	山口市不燃物中間処理センター　２階会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	今村委員、坂本委員、豊田委員、樋口委員、福代委員
欠席者	なし
事務局	環境政策課 江村課長、今谷主幹、谷口主幹、長尾副主幹、山本主任主事、児玉主事
議題	１．開会 ２．議事 （１）山口市環境基本計画中間見直しについて （２）意見交換 ３．その他
内容	次第に沿って以下のとおり進められた。 ＜事務局＞ 配布資料の確認 【課長挨拶】 ＜部会長＞ 部会長挨拶 会議内容について原則公開とし、議事録についても公表させていただくことを提案→了承 （１）山口市環境基本計画中間見直しについて ＜事務局＞ 資料に基づき説明 以下、各委員及び事務局の発言要旨 ＜部会長＞ 今回は、中間見直しなので、計画の骨格部分が継承されるということでございま

	す。お気づきの点や提言、御意見等がございましたら、御発言をお願いします。 ＜委員＞ 　地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を一体化させるという事についてです。現行の地球温暖化対策実行計画もかなり充実しているが、そのまま包含するとなると、内容的に生物多様性等の内容とアンバランスなると思います。 　一方で内容を絞り込むとなると、もったいないのではないかと思いますが、いかがでしょうか。 ＜事務局＞ 　環境目標3のところで、それぞれ、地球温暖化対策の推進（緩和策、）地球にやさしいエネルギー対策の推進、気候変動への適応（適応策）ということで、現行の環境基本計画に掲載しております。 　掲載方法によると思いますが、委員御指摘のとおり、環境目標3のところだけが内容的に厚くなるとバランスが取れなくなるので、環境目標3のところに、本編として目標等の総枠の部分を掲載し、資料編というような形で、詳しいところを掲載していくような形で考えております。 ＜委員＞ 　そもそも、今回、それぞれの計画を一体化させるということにした意図を御説明願います。 ＜事務局＞ 　気候変動に伴う地球温暖化対策自体が、生物多様性、循環型社会の構築といった様々な環境政策と密接に関連してくることから、包含する形として整理したという事です。 ＜委員＞ 　山口市ゼロカーボンシティ宣言をして、積極的に進めてくということですが、今後、脱炭素先行地域への応募も視野に入れて、積極的に進めていくという事でしょうか。 ＜事務局＞ 　山口市においても、脱炭素先行地域に応募していくこととして準備を進めております。 ＜委員＞ 　プラスチック資源循環促進法の関係で、重点プロジェクトの中でも、プラスチック

	製品の収集処理などの検討ということで、かなり積極的に進められるとのことですが、自治体にとってはコストのかかることで、全国的にも躊躇しているところが多いと思います。 　その中で、今回の記述を見ると、前向きに、プラスチック製品のリサイクルを進めていく意思表明というふうに捉えていいのでしょうか。 ＜事務局＞ 　委員御指摘のように、確かに、全国的には躊躇しているという自治体は多いと思います。本市としても同じ状況です。 　ただ、国のほうから示されているものとしては、廃棄物処理施設の施設整備の際に交付されている、循環型社会形成推進交付金の交付に対して、この度のプラスチック製品リサイクルが要件の一つとされましたこともありますので、本市としては、プラスチック製品リサイクルを進めていくことを前提に検討をしていくということです。 　進めるにあたっては、開始時期、費用、処理方法等をしっかり検討しなければならないと考えております。 ＜委員＞ 　現在、プラスチック製容器包装は分別しているが、プラ製品は、不燃物として処理されている。 　市民からすると、出すときに分かりやすいし、それが、資源循環とか、最終処分場の埋立量の減少にもつながること自体はいいと思います、 　ただ、自治体に負担がかかって、結果的に、市民にそれが返ってくるということは本末転倒なので、そのあたりは、よく考えていただきたいと思います。 　実施可能であれば、是非やっていただきたいと思います。 　確か、全国でモデル事業をしておられますよね。そのあたりも応募していくという事を視野に入れておられますか。 ＜事務局＞ 　現在、環境部内で、プロジェクトチームをつくって、方向性、進め方等について検討をしております。 　現時点では、モデル事業への応募の予定はありませんが、そのプロジェクトチームの中で、モデル事業等についても検討していくという事になろうかと考えております。 　最終的には、市民の皆様にも御負担をいただくことがあるかと思いますので、しっかり御意見を伺いながら考えていきたいと思っております。 　＜委員＞ 　進行管理指標についてです。環境目標1の、1－①の、有害鳥獣の捕獲頭羽数に

	ついてです。 　この目標設定をみると、捕獲数を増やすという事になっていると思いますが、捕獲数を増やすと、有害鳥獣が駆除できるということにはなると思いますが、本来は、被害をできるだけ減らすのが目的であると思います。 　そう考えると、本当は捕獲数が減るほうがいいというように思います。 　何か、実質的な被害を、直接反映できるような指標があれば、より分かりやすくなると思います。 　捕獲数で評価するということの適切性について、どのように考えたらいいのか教えてください。 ＜事務局＞ 　こちらについては、被害が減ってくる状況であれば、捕獲数の減少といった目標設定もありますが、なかなか減らない状況という状況もありますので、現実としては、捕獲数を増やすということとしておりまうす。 　成果が現れてくれば、委員御指摘のように、こちらの指標についても見直し等を図っていく必要があると考えております。 　＜委員＞ 　環境目標2の①のところで、従来からある指標ですが、ごみ排出量に対する資源物の割合が設定してあります。 　目標設定の仕方として、資源物の割合を増やそうという形になっているかと思いますが、なかなか判断が難しいと思っていて、排出されるごみの中の資源物については、回収方法もいろいろありますので、山口市として把握できるものと、把握できないものがあると思います。 　また、資源物として使えるもの自体が、製品の段階から減量化されているということもあると思います。 　総排出量に対する割合が増えるというのが、本当に目指す目標としていいのか、割合として下がっていても、それは資源物自体が減量化されていくとか、いろいろなところで回収されるであるとか、そういう解釈もできるのではないかと思っています。 ＜事務局＞ 　現在、一般廃棄物処理基本計画の見直し作業の中でも、廃棄物減量等推進審議会の皆様に検討していただいている状況で、今の御意見等も含めて、どういった目標値がいいのかという検討をしていきたいと思っております。 　先日、審議会がございまして、その中で、指標等についても、いろいろお話をさせてもらっている状況でございます

	＜委員＞ プラスチック資源循環促進法が施行されて、やまぐちエコ倶楽部のメンバーでも話をしたのですが、大変よかったというような意見がありました。 というのも、大浦一般廃棄物最終処分場に、この2年間に2回ほど伺ったのですが、こういった破砕されたプラスチックのチップがたくさんありました。 これで、埋立が少なくなるなということがありますので、市にとりましては、大変であると思いますが、是非進めていただきたいし、期待をしているところです。 平成13年に、プラスチック製容器包装の収集が始まるときに、やまぐちエコ倶楽部のメンバー約70名が、市からプレ調査に協力してほしいという話がありまして、1週間ほど、皆でプラスチック製容器包装を集めたりといったことを行いました。 もし、そういうことがあれば、今回も是非協力していきたいと思っています。 ＜事務局＞ ありがとうございます。 ＜委員＞ 資料3ですが、有害鳥獣の捕獲頭羽数ですが、有害鳥獣が増えているのか、減っているのかというのが、基本になるので、どんどん増えていたら捕まえる頭数を増やさないといけない。減っていたら捕まえなくてもいいわけで。 推定でどのくらいいるのかとかを調べておられると思うので、それとの関連で数字の考え方を示していただければと思います。 あと、1－①、生物多様性の認知度とありますが、これはどうやって測定するのかというのは考えていただければと思います。 生物多様性を知っていますかだけであれば、知っているということで100％になる。もう少し具体的に何を聞くのかということですね。 おそらく、県のほうも同じような調査をしていると思います。何を聞くのかという事は確認がいると思います。 1－④、ゲンジボタルの話ですが、この指標については、削除で構わないと思いますが、進行管理が困難というのは、数える人がいないということですか。 ＜事務局＞ この橋からこの橋までの、この期間のホタルの数ということで、大殿ホタルを守る会の方が数えておられますが、数が増えたからどうすべきであるとか、なぜ減ったかというような分析が困難ということです。 ＜委員＞ 多分、数は変動すると思います。変動の範囲がある程度の範囲であれば別に構わないと思います。根拠はよく分からないと思います。削除でもいいですが、その

	あたりは文化財保護とも話をされた方がいいと思います。 　2の①、リサイクル率と、ごみ総排出量に対する資源物の割合を1つに統合してもいいのではないかと思います。リサイクル率というのは、資源物として回収するものと、燃やしてエネルギーとして回収する、いわゆるマテリアルリサイクルとサーマルリサイクル、その合計が、リサイクル率になるわけです。 　というふうに考えたら、一本化したほうが簡単なのかなと思います。 ＜委員＞ 　熱回収とマテリアルリサイクルの量を分けて表示することはできるのではないかと思います。それぞれを示した方がいいのではないかと思います。 ＜委員＞ 　そうだと思います。ただ、資源物のほうが減っていくかもしれません。進行管理指標としてはどうかという事です。足し合わせると全体の率は上がりますが、中身の割合はどうなるか分からないということがあると思います。 ＜委員＞ 　そこを目標設定するのではなくて、足し合わせたもののリサイクル率として、目標設定をするのはいいと思いますが、中身が分かるような形で表示をしたほうがいいのではないかということです。 ＜委員＞ 　リサイクル率を全体で示しておいて、中の割合はこうなっていますという表示をするということですね。 ＜委員＞ 　計算の過程で分けておいて、最後に足し合わせるという事にするといいのではないかということです。 ＜委員＞ 　究極のリサイクル社会になって、例えば、全部木で賄うことできるようになれば、資源回収は多分ゼロになると思います。 　サーマルリサイクル、燃やしてエネルギーとして回収するということになる。そのような理想どおりにはいかないですが。 　循環型社会の方向性としてはそうなる可能性もありますよね。プラスチックもエネルギーにする。プラスチックがプラスチックに戻るのではなくて、エネルギーになってしまうという。

	＜委員＞ 　もう一つの方向性として、文章のなかでは循環型社会という表現になっておりますが、循環経済をどうしようということで進めてく必要があります。 　そうすると、廃棄物として出てくるものは逆に少なくなってくるはずです。要するに、経済を回すため、資源を有効利用して、経済の中にしっかりそれを入れていこうという話ですから。 　商品であったり、サービスとして、そこに入ってくることになるので。 　そうなってくると、逆に、こういった資源物が少なくなってこないとおかしいという話になってくると思うので。 　それが、どのくらい先になるのかは分かりませんが、そういった方向性も、もしかしたらあるのかもしれないと思います。 ＜委員＞ 　その場合は、リサイクル率という時に、処分されるところに達しないものは除くことになります。 　究極でいうと、例えば瓶をそのまま洗って使うようになれば、瓶のごみは出てこないということになります。 　リサイクル率は、あくまでも処分した時のリサイクル率を示すという事ですよね。廃品回収のように、そのまま業者に流れてしまうようなものは外れると。 ＜委員＞ 　市で把握できるものが少なくなってくる可能性は十分考えられると思います。 ＜委員＞ 　ここ10年とかそういうレベルではなくて、将来的にはそうなるかもしれないです。古紙回収だってそうですよね。古紙回収は、高い金額で業者が回収さするので、市で回収しようといても出てこないということになりますよね。 ＜委員＞ 　廃棄物の話ですが、行政的には廃棄物であるとか、ごみという表現が分かりやすいのかもしれませんが、今後、ごみをどんどん減らしていくという方向性で、社会が動いているので、ごみという表現ではなくて、資源物とか資源とか、そういう表現に変えていった方がいいのではないかなと思います。 　そうすると、市民がごみを出すというのではなく、資源になるものとして出してくれるという、それによって、意識が大きく変わる可能性があるのかなということです。 　総合計画の策定部会の時にも提案させてもらったのですが、いろいろな市民向けの文章であるとか、パンフレットであるとか、そういったものについては、廃棄物

	かごみという表現ではなくて、資源物とか、もっといい言い方があるのかもしれませんが、そういった形に変えていくというのも一つの方法と思います。 　これは提案です。 ＜委員＞ 　２－②ですが、廃棄物の適正管理とエネルギーとしての有効活用とありますが、エネルギー関係の部分が全部なくなるのかどうかは分かりませんが、最終的に、進行管理指標が、1人当たり埋立処分量だけとなった場合は、エネルギーとしての有効活用の部分はもう外してもいいとうことになりますか。 ＜事務局＞ 　廃棄物の適正管理とエネルギーとしての有効活用ということで、廃棄物から生まれてくるエネルギーの有効活用というのは、引き続き進めていきますし、いろいろ研究をしていくというところは掲載していきたいと思っております。 　そういう中で、実際の進行管理指標としては、既に施設を導入済みでございますので、そこについては削除をするということです。 　先ほど、脱炭素先行地域の話も少しさせていただきましたが、脱炭素先行地域に選定してもらえるように進めていく中で、その地域において、カーボンニュートラルを目指すということで、そのエネルギーをどこで賄うのかというところでいうと、こちらの廃棄物発電は重要なエネルギー源でありますので、このエネルギーを地域還元できるように、そういった取組を進めていくという位置づけを、ここに示しておきたいというように思っております。 　再生可能エネルギー等の関係ということになりますと、主には、環境目標3のところで、地球温暖化対策実行計画のところで、記載をして、目標等を入れていくというような形になると思っております。 ＜委員＞ 　今の話を踏まえると、2の①と②を分ける必要がなくなってきたのではないかなというふうに思います。 　エネルギーとしての有効活用は2－①の熱回収のほうにもあるので、今回は骨格をかえないということでございますが、環境目標2はかえる必要はないですが、2－①と②は統合してもいいのかなというのが私の感触です。 　3Rを進めると、おそらく埋立量が減ると思います。資源化が進みますので。 　そうすると①と②に分ける必要もなくなるのかなと思います。 ＜事務局＞ 　一般廃棄物処理基本計画との整合等もありまして、3R、ごみを出されたものをどうやってリサイクル等をしていくかという事と、こちらのほうは、施設の適切な維

	持管理のことを記載しておりまして、一般廃棄物処理基本計画の中においては、こちらも重要な項目となっておりますので、そういったところで分けているというところはあります。 　そちらのほうとも整合を図りながら、もう一度確認をしながら、どうがいいのかということは検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。 ＜委員＞ 　資料3についてです。例えば、1ページの、具体的な生活環境が整っている市民の割合であるとか、水辺がきれいだと思う市民の割合であるとか、市民の割合というのが多くありますが、それを上げていくには、環境学習の場を増やしたり、5ページであれば、実施回数とか、体験学習の実施回数とか、そういうのをどんどん増やしていくということが、大切と思います。 　ただ、そういった回数は、5ページの1番上だと、最終目標が、6回ということになっていて、もう平成30年、令和2年に、もう6回やっている。 　そのほかも、1ページの、イベントの参加者数とかも、数値目標は2,000人だけど、コロナ前が4,000人の実績であり、目標に達しているし、4ページの4の①ですが、出前講座の回数も、目標が40であるけどもう達している。 　この度の見直しの中で、目標数値を上げるというのはできないのでしょうか。 ＜事務局＞ 　御指摘いただいたように、今回の見直しの中で、目標数値自体を、実績を踏まえて見直すということは考えていきたいと思っていまして、他の計画等で検討を進めている中で、そちらとの整合というのもありまして、今回はお示し出来てない状況です。 　おっしゃるとおり、既に達成しているようなところは、既に達成できているのであれば進行管理指標からは落とすのか、それかもっと上を目指すのかということになると思いますので、残すのであれば、上を目指すというような形で整理したいと思っています。 　次回の策定部会でも、御議論いただきたいと思っています。 ＜委員＞ 中には、それを維持することが大切なものもあると思いますが、イベントの実施目標が達成している割には、まだ市民の意識の数値は目標には達していないので、見直してもいいのではないかと思います。 ＜委員＞ 　資料2の4ページ、環境目標2のところですが、地域脱炭素の取組として、清掃工場による熱回収の記述がありますが、これは地域新電力をつくるという意味で捉え

	ていいのですか。 ＜事務局＞ 　先ほども、環境省から示されている脱炭素先行地域に応募するのかというお話がありましたが、応募に向けて準備を進めているところです。 　内容につきましては、廃棄物発電の余剰電力の有効活用、再生可能エネルギーの地産地消という中で、域外ではなくて域内で環境・エネルギーを循環していくという上では、地域新電力会社をたちあげて行っていくというところのスキームは、現在検討をしているところです。 ＜委員＞ 　そういうイメージで捉えていいということですね。 ＜事務局＞ 　はい、そのとおりです。 ＜委員＞ 　分かりました。 　ということは、清掃工場の熱回収の電力だけではなくて、太陽光とかほかの再生可能エネルギーも含めてという理解でよろしいですか。 ＜事務局＞ 　そのあたりも、検討中でございます。 ＜委員＞ 　そうすると、廃棄物の適正処理の中にはいっているので、地球温暖化対策のところに入れてしまったほうが、より分かりやすいのかなと思います。 　どこにいれるかというのは検討していただければと思います。 ＜事務局＞ 　環境目標3にも、こういったところを掲載していく必要があると考えています。 　ここは、廃棄物処理施設の項目のところなので、このような記載をしておりますが、環境目標3のところで、いただいた御意見を踏まえて、検討していきたいと思います。 ＜委員＞ 　生物多様性の話で、外来生物法の改正の話もありましたが、外来種が増えていますので、積極的に駆除をするというようなというところをいれこむのは難しいです

	か。 ＜事務局＞ 　例えば、オオキンケイギクとかですね。どう駆除をしていくかというと、悩ましいところではありまして、どうしても、地道な取組になってくると思います。 　地道な取組を、いかに普及啓発していくかというころで、アメリカザリガニであるとか身近なところについてお示ししていく中で、啓発を図っていくというところではあります。 　やはり、知ってもらう、小学生の子ども達から大人まで幅広し世代に知ってもらう必要があると思っています。 ＜委員＞ 　資料2の7ページ、環境目標4－③のところで、現況と課題のところですが、未来に継承できる農業というところで、作業の省力化や生産性の向上云々ということがありますが、これは、上位計画はあるのですか。 　結局、これは農業政策ですよね。農業政策課との関係はどうなっておりますか。 ＜事務局＞ 　こちらについては、山口市食料農業農村振興プランがありまして、農業政策課が所管しています。 　その中で、デジタル社会の構築を一つのキーワードとして、農業についてもスマート農業化というのは重要な案件にもなっておりまして、進めていくということでございます。 　そういった、環境面からも農村地域の農業の振興というのは重要であるという事で、この度、つけ加えるような形で掲載をしております。 ＜委員＞ 　農業のところで、例えばソーラーシェアリングを普及させるみたいな話が入っているのかどうか。 　もし、ないのであればそういったものを入れてもらうという事も、農業を自立させていく上では、大変有効な方法であるかなと思います。 　農業だけではなくて、林業もかなり課題が大きいというのは伺っておりまして、林業について、ここにいれこむ余地があるのかないのか。 ＜事務局＞ 　確かに林業の方も、担い手不足の問題というところはありまして、山林を守っていくというところは大変重要であると考えておりまして、こちらは林業振興プランがあります。そちらのほうで整理されております。

	その中で、社会経済の仕組みづくりといった面でいうと、この度は農業の方を掲載しております。林業の関係については、整理としては里山、里海の保全として、環境目標1－①で整理をしております。 ＜事務局＞ カーボンニュートラルという事でいきますと、森林がCO2を吸収するということで、森林環境の保全及び活用という事で、脱炭素の視点から、環境目標3で記載をしていくということは可能かと思います。 ＜委員＞ 林業の関係は、CO2の吸収源として大変重要になりますので是非入れた方がいいと思います。 ＜事務局＞ ３－②のところで、木質バイオマスというようなことは掲載しておりますので、そのあたりの整理として、今の御意見踏まえて検討をさせてもらったらと思います。 ありがとうございます。 ＜部会長＞ そのほか意見があるかもしれませんが、(2)の議題にうつらせていただいて、もしお気づきがあればその中で意見を伺いたいと思います。 意見交換という事になっております。環境目標3については、準備段階という事ですので、手元にある資料としては、資料1の8ページが環境目標3に関わるところですね。資料3の3ページ、これが環境目標3に関わるところです。 現在ある資料は、ここまでの範囲ですが、資料作成中という事で細かいところはありませんが、環境目標3の部分について、御意見がありましたらお願いします。 既に、話の中でも御意見がでておりますが、環境目標3の地球温暖対策実行計画、気候変動適応計画、これについて御意見ありましたらお願いしたいと思います。 ＜委員＞ 先ほど、自家消費型太陽光発電の促進といった説明があったと思いますが、住宅用太陽光発電の導入件数は指標にもあがっておりますが、蓄電池についてはいかがでしょうか。導入目標というのがあってもいいと思います。 ＜事務局＞ 御意見をふまえて検討したいと思います。把握が可能かどうかも含めて検討してみます。

	＜委員＞ 太陽光で問題になるのが、発電のピーク時間帯と消費のピークがずれるので。 結局捨てているといった現状があります。 それを埋める方法として、今よく言われているのが蓄電池ですよね。 県のほうは、太陽光の補助金はやめて、ZEHの補助をやっている。そういう意味でいうと、蓄電池と、電池を直接使わなくても、電気自動車に蓄電というのもあるので、このあたりが入ってもいいと思います。 電気自動車であれば確実にこれから増えますから。そのあたりの数字をとると、環境対応にもつながる話にもなるし、目標も管理しやすいと思います。 御検討いただければと思います。 ＜事務局＞ 御指摘いただいたように、蓄電池であったり、電気自動車であったり、そういったところについて、いかに進めていくかというのはありまして、その中で、まず、公共施設において、いかに導入できるかというところは、いろいろ検討していかなければいけないと思っています。 脱炭素先行地域づくりを考えたときに、公共施設において、そういったものを導入できるかというところが重要になると考えております。 防災拠点機能の強化につながると思いますので。 御意見いただいたことを踏まえて、検討してみたいと思います。 ありがとうございます。 ＜委員＞ EVのほうは、別で指標をたてていますが、蓄電の能力もあるので、ダブルカウントになるかもしれませんが、それはそれであってもいいのではないかと思います。 ＜委員＞ 気候変動につながることというと、防災ということがあって、環境と防災をどのようにすみわけをするのかなというのが悩ましいところではあります。 山口市の特徴で考えたら、山口市は盆地なので、暑いんですよね。最高気温は、西日本の中でも高くて、降雨量も県内トップクラスだと思います。 市としても、特徴と考えると、猛暑とか、熱中症に、これからも山口市が適応していくためには、環境として、生活のリズムみたいなのものを考える必要があると思います。 例えば、山口時間みたいなのが必要になってくるのか、朝晩の涼しい時間を有効活用していくとか、もちろん、災害対策でも、森林の整備が、すごく大切であると思います。

	何かそういう山口市ならではの対策みたいなものが、環境整備とかいったものがあればいいのかなと思います。 ＜事務局＞ 適応策のところになるものと思います。今の御意見を踏まえながら、検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。 ＜委員＞ 萩市に行ったら、萩市役所で出ている紙を全部トイレットペーパーにされていて、それは萩市が作っておられます。すごくいいなと思いました。 山口市の特徴といったら、市役所だけでなく、県庁もあるし、いろんな行政機関があります。 だから、紙のごみは、山口市はすごく多いというのが特徴の一つではないかと思います。萩市以上に。 こういうことを、山口市として取り組んで、何かイベントの時にプレゼントするとか、そういったものがあるといいと思います。 あと、萩市のリサイクルプラザで集まってくる浴衣を利用して、市役所の方たちが、浴衣TシャツというTシャツを、夏の間、着ておられました。 周防大島町が、ハワイのアロハシャツを着るのと一緒で。 市民が目に見えて、環境について山口市は取り組んでいるなということが分かる、見える化できるものというのはおもしろいと思いました。 テレビでやっていましたが、古くなったTシャツを、エコバックにするというような取り組みもありました。針を使わずに子ども達でもTシャツからエコバッグが作れます。 そういう取組が山口市もできたらいいのではないかと思います。 ＜事務局＞ 1つ、情報提供になりますが、ペットボトル、山口市の市民に出していただいたペットボトルを、全部ではないですが、飲料製品の製造業者と、ペットボトル製造業者と、山口市で3者協定を締結して、ペットボトルの水平リサイクル、ペットボトルを集めたものを、再度ペットボトルにする、それを山口市で流通させる、そういったいった取組を進めることとしております。 この8月末に協定を結ぶこととしております。県内では山口市が初めての取組という事になります。 そうした事を行うことによって、リサイクル意識の向上を図ることとしております。 ＜委員＞ 環境目標3に対して、項目として地球温暖化対策の推進と、地球にやさしいエネ

	ルギー対策の推進、気候変動の適応策の3つにわけられておりますが、もし、可能であれば、CO2を吸収する対策というのを、分けて入れたほうがいいのではないかと思います。 　先ほどの林業の話、バイオマスの話にもつながることです。 　もう一つ入れてほしいと思うが、ブルーカーボンの話があります。 　山口市は、森も海もありますので、海の方も吸収源を増やすという事でそういったところの何か指標があってもいいと思います。 ＜事務局＞ 　御意見を参考にさせてもらいたいと思います。指標としておくかどうか、中身に記載していくかというのは、章立ても含めて検討させていただいたらと思います。 　ありがとうございます。 ＜委員＞ 　質問ですが、３－②のところに、市内事業者の木質チップ加工を目的とした買取量とあるのですが、これは何を意味しているのかなと思います。 　木質チップを、ものづくりのための原材料に使うというところで二酸化炭素の固定化をしていくという意味合いでととらえていいですか。 ＜事務局＞ 　林業の振興の視点で、木質チップへの加工を目的とした買取量を指標としておいているというものです。 ＜委員＞ 　イメージがつきづらいかなと思います。もう少しわかりやすい表現にした方がいいと思います。 ＜事務局＞ 　ありがとうございます。検討します。 ＜委員＞ 　資料３－③ですが、気候変動への対応のところで、例えば熱中症への備えみたいなところを入れてもいいと思います。 　気候変動や適応策に関心を持っているというよりも、もっと具体的な行動とかで表してもいいのかなと思います。 　例えばクールビズなどの定着したようなものをポイント数で数えて、いろいろな項目を並べて、どれだけやっているかというものを使うと、関心を持っているというよりはもう少し詳しくなると思います。

	熱中症も、そういう項目の一つで、結局エアコンを使うなではなくて、自然ツールの活用とか、そういうところをいれていくことができるのかなと。例えば、グリーンカーテンとかですね。 そういう試みをいろいろやっておられると思いますので。 それをポイント化して数えれば、具体的にどのくらいやっていただいていることになるのかということが把握できると思います。 ＜事務局＞ 参考にさせていただきたいと思います。 ＜委員＞ 指標として、ZEHの件数というのもあると思います。新築の建物における導入割合とか件数にするのかはありますが。 ＜委員＞ 断熱改修というようなこともあると思います。 窓ガラスを二重サッシにするだけで全然違うので。そういった省エネ改修は、何十年にわたって使える指標なので、あってもいいと思います。 ＜委員＞ 資料2でいいますと、3ページ。環境目標2－①でございまして、各主体の取組で、かなり文章の変更をされていると思います。 市民の取組とか事業者の取組というのが、現行のものから、かなりシンプルになっているということで、これは、項目をまとめてすっきりさせたということですか。 ＜事務局＞ 一般廃棄物処理基本計画の見直しとの関連、整合の関係で、シンプルにしているというところでございます。 ＜委員＞ 事業者の取組についてですが、山口市の処分場にも事業系の一般廃棄物が入ってきていると思うのですが、事業系の一般廃棄物の組成調査というようなデータはとられているのでしょうか。 こちらの部門ですと、最初に、食品関係の、食品ロス削減であるとか、使い捨て製品の発生抑制というような話があって、その次に、紙ごみの発生抑制という流れになっているのですが、実際の排出の規模として、どちらがどうなのかということが分からなかったので。 ＜事務局＞

	確認してみます。 ＜部会長＞ 今日、いろいろお聞きしましたが、何かありましたら、事務局あてに御連絡いただければと思います。 議事のところはここまでにさせていただいて、その他連絡事項を事務局の方からお願いします。 ＜事務局＞ 本日の議事録についてでございますが、冒頭、部会長からもお話ありましたが、事務局で作成いたしまして、各委員の皆様に、御確認いただいた後、市のウェブサイトに公表する形としておりますので、よろしくお願いいたします。 次回の策定部会は、10月を考えております。 その際には、地球温暖化対策の関係を中心に、御議論を賜りたいと思いますのでよろしくお願いします。 開催の際には、メール等で、御連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。 事務局からは以上でございます。 ＜部会長＞ ありがとうございます。事務連絡に関して質問等ありますか。 それでは、事務局にお返しいたしますのでよろしくお願いいたします。 ＜事務局＞ 委員の皆様には、本日はお忙しい中、長時間にわたり、様々な観点から貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。 とりわけ指標の設定の考え方については、環境部局のみならず他部局のものも含めて、また新たに整理したうえでお示しをしてまいりたいと思っておりますので、次の策定部会におきまして、御議論いただけたらと思います。 本日はどうもお忙しいところありがとうございました。 閉会
会議資料	・令和４年度第２回山口市環境基本計画策定部会　次第 ・環境基本策定部会席次表 ・山口市環境基本計画中間見直し概要　資料１ ・環境目標ごとの見直し資料　資料２ ・進行管理指標見直し資料　資料３ ・重点プロジェクト見直し資料　資料４

問い合わせ先	環境部　環境政策課　総務担当 TEL ０８３－９４１－２１７５